

2023_1128「蛭川と867高地(写真)」日々の理科 3400号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

長野の研究会では、午前中に蛭川(ひるかわ)という小川で、水生昆虫の観察会がありました。蛭川は千曲川の支流の一つで、今の季節は水量も少なく、転石伝いに対岸まで数歩で渡渉できるような川です。万が一足をとられたり、スッ転んだり、いかなることがあっても、下流に流される心配はありません。

この日は長野の先生方だけでなく、地元の中学生もたくさん参加していて、石の表面や下にいる水生昆虫を探しました。私は水生昆虫に関しては全くの素人なのですが、参加者には非常に詳しい方が何人もいました。どれも同じように見える虫を、鮮やかに種の同定をしていく様子に、全く感服してしまいました。

観察会の日はこの秋一番の寒さなのに、私はジャンパーしか羽織っていなかったので、終始寒さに震えていました。しかし周囲の風景は美しく、紅葉もまさに見頃といった感じでした。川の上流には、秋色に色づいた形の良い山が見えました。気の効いた名称があると期待していたのですが、あとで地理院の地形図を見ると、山名も登山道もなく「866.7m」の三角点の記号しかありませんでした。

(2023年11月下旬/長野市松代町)

